

令和6年度 第2回 沖縄県 SDGs アドバイザリーボード会議 議事概要

○日 時：2025 年 3 月 26 日（水）14:00-16:00

○場 所：沖縄県庁本庁舎 6階第2特別会議室

○出席者：

（委員）玉城座長、北村委員、佐野委員、島袋委員、平本委員、淵辺委員、和田委員

（沖縄県）武村統括監、新垣室長、川武主幹、金城主任

<以下、議事概要>

（事務局）

それでは、時間となりましたので始めたいと思います。本日は大変お忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。

令和6年度第2回 SDGs アドバイザリーボード会議を開催させていただきます。本日の司会は、沖縄県企画部企画調整課 SDGs 推進室 新垣が務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。初めに、配付資料の確認をいたします。

本日の配付資料は、（資料1）沖縄県内の SDGs 進捗状況のモニタリングの概要、（資料2）沖縄県 SDGs モニタリング報告書概要、（資料3-1）沖縄県 SDGs モニタリング報告書案、（資料3-2）別紙「17のゴールごと」のモニタリング、（資料3-3）別紙「おきなわ SDGs アクションプラン」のモニタリング、（資料4）SDGs に関する取り組みについて、（参考資料1）モニタリング等に対する御意見について、（参考資料2）サマリー方向性に対する御意見、その他、委員名簿、出席状況、委員配席図となっております。大丈夫でしょうか。

ここで委員の皆様には会議中の御発言につきまして、幾つか御協力をお願いします。オンラインで御参加の委員の方には、発言を希望される場合は、恐れ入りますがお名前を述べていただき、発言がある旨を発声いただくか、チャット機能を使用し、発言がある旨をお伝えいただきますようお願いいたします。音声繋がらなくなった場合などにも、チャット機能が御利用いただけますので必要があれば、御活用いただければと思います。また、御来場いただいております委員の皆様は、オンライン環境設定の都合上、御発言の際は、お名前を述べていただき、マイクを近づけて御利用ください。併せて、ハウリングや雑音混入防止のため、発言時以外は、マイクをミュートオフにさせていただきますようお願いいたします。

本日は蟹江委員から御欠席の御連絡をいただいております。佐野委員、北村委員、和田委員は、オンラインでの御参加、7名の委員の皆様には御参加いただいております。よろしくをお願いいたします。ここで武村企画調整統括監より御挨拶をいただきます。

（武村企画調整統括監）

皆様こんにちは。企画部企画調整統括監の武村でございます。委員の皆様におかれま

しては、年度末のご多用の中、本会議に御来場いただくとともに、オンラインで御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

県ではこれまで皆様からいただいた御意見をもとに、様々な取り組みを展開してまいりました。前回の会議では、おきなわ SDGs アクションプランのモニタリングやサマリーについて御議論いただき、たくさんの御意見を頂戴いたしました。

御承知の通り、県では、これまでアクションプランに基づく各種取り組みや、パートナーシップの促進を図るため、おきなわ SDGs プラットフォームの創設や、昨年 12 月に開催した SDGs 全国フォーラム等を通じた情報発信を行ってまいりました。

一方で、昨年 9 月に開催された国連未来サミットでは、未来のための協定が採択され、SDGs の達成に向けた活動を加速化させることが求められております。

また、2030 年以降の進め方についても検討を開始する必要性が確認されております。引き続き、皆様からの多様な視点からの御意見が非常に重要になるものと考えております。

本日の会議では、令和 6 年度沖縄県 SDGs モニタリング報告書案の概要報告、モニタリングや、サマリーの今後の方向性などについて、御意見をいただきたいと考えております。委員の皆様には、忌憚のない御意見、御助言をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（事務局）

ありがとうございました。それでは、議事進行を玉城座長にお願いしたいと思います。玉城座長よろしくお願いいたします。

（玉城座長）

皆さん、こんにちは。12 月 21 日の SDGs 全国フォーラム、そして 22 日の SDGs アドバイザリーボードを受けまして気が付くと 3 ヶ月が経ちました。

沖縄にいるものですから、全国フォーラムの評価というのを、あちらこちらから頂きました。南風原高校の学生の皆さん、沖縄キリスト教学院大学の学生の皆さん、展示ブースで展示されていた方々など本当に多くの方々と出会い、新しいプロジェクトが動いたり、大学生にとっては次のステップになったという御意見をいただきました。ひとえに皆様のおかげと思っています。ありがとうございました。

そして、事務局の皆さんもここまで本当にいろいろな御苦労があったと思いますし、まとめるのも大変御苦労されているかなと思います。日々ありがとうございます。

それでは、今年度の最後の会議となります。年度末の非常にお忙しい中、皆様こうして集まっていただきますこと、本当に感謝申し上げますとともに、モニタリング報告書がほぼ完成に近づいておりますので、皆様からの忌憚のない御意見をいただきながら進めていけたと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは事務局の方から資料の説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、事務局より説明させていただきます。SDGs 推進室新垣です。よろしくお願いいたします。早速ではございますが、資料 1 を御覧ください。資料 1 の 1 ページ目につきまして、御説明します。

モニタリング報告書の作成の背景につきましては、昨年度に御説明しておりますが、改めてバックグラウンドの考え方を御説明いたします。

国内の状況については、国の実施指針の中で、進捗を管理するガバナンス手法の確立や SDGs 達成に向けた取り組みを測定すること、ローカル指標を設定すること、このようなことが地方自治体に期待する取り組みとして記載されております。

沖縄県の状況ですが、令和 3 年 9 月に策定した沖縄県 SDGs 実施指針の中で、取り組み状況等のモニタリング、進捗のフォローアップの実施や多くの人々の参画のもと、透明性を持って点検し、フィードバックを図るとされ、その役割は専門部会、アドバイザリーボードに位置付けております。こうしたことを踏まえ、昨年度、令和 5 年度からモニタリング報告書を取りまとめ、公表しているところです。

続きまして 2 ページ目をご覧ください。モニタリングにつきましては、毎年度実施することとなっているため、SDGs 専門部会、SDGs アドバイザリーボード会議において、委員の皆様からの御意見を収集し、さらに関係部局に照会し、その取りまとめ、SDGs 推進本部において了承後に、令和 6 年度、沖縄県 SDGs モニタリング報告書として公表を予定しております。モニタリング報告書は、ホームページなどで公開し、プラットフォーム内で、市町村、教育機関、企業団体において、新たな取り組みの創出や取り組みの見直しなどに活用いただければと考えております。

3 ページ目をご覧ください。モニタリング報告書の構成につきまして御説明いたします。第 1 章から第 3 章では、モニタリングをする背景、外部動向、モニタリングのプロセス等を記載しております。第 4 章では、県内の SDGs に関する状況について、17 のゴールごとと、おきなわ SDGs アクションプランの 2 点での構成としております。第 5 章では、沖縄県内の SDGs の活動状況につきまして取りまとめをしております。構成につきましては、昨年度に取りまとめましたモニタリング報告書と同様の構成を考えております。

それでは、次に 4 ページ目をご覧ください。17 のゴールごとのモニタリングの指標選定について御説明いたします。指標の選定にあたっては、内閣府の地方創生 SDGs ローカル指標リストや国連地域開発センターの SDGs 達成度評価指標などを踏まえ、年次でデータが取得可能なものを選定して評価しております。また、全国値との比較可能な共通指標と地域特性に関するローカル指標を設定しています。

SDGs につきましては、多岐の分野にわたり、様々なアプローチの仕方があることから、表にあります視点を参考とし、地域に合わせた指標、毎年データが取得可能な指標を選定し、当面は独自に選定した指標でのモニタリングの実施をすることとしております。

5 ページ目を御覧ください。令和 6 年度のモニタリング報告書から、新たに追加した指標となります。ゴール 3 の合計特殊出生率の追加資料については、少子化への対応と

して、安心して子育てできる環境の実現等に対するアクションとして追加しております。ゴール4の採用後10年までの正規雇用の教員のうち、特別支援教育に関する経験が2年以上ある教員の追加指標については、すべての人々に包摂的で公平な教育をという観点から追加をしております。ゴール12のレジ袋辞退率、ゴール15の森林整備面積については、沖縄の実情に合わせまして、ローカル指標として選定しております。

6ページ目をご覧ください。17のゴールごとのモニタリング評価方法について御説明いたします。SDGsの17のゴールごとに、沖縄県の前年値、現状値、全国値を収集・整備、各指標の評価と各ゴールの評価を行っております。評価にあたりまして、進捗状況、全国値との2つの視点から評価を行っております。

進捗状況につきましては、SDGsの17のゴールごとに選定した各指標について、前年値と現状値を比較し、前進、横ばい、後退の3段階を矢印で評価を行っております。進捗状況の評価基準につきましては、変化率を用いて、5%以上であれば前進、マイナス5.0%より大きく5.0%未満の場合は横ばい、マイナス5.0%以下であれば後退としております。

全国水準との比較結果については、全国値との比較可能な共通指標を評価しており、沖縄県の現状値が全国と比べ進んでいる場合は、到達とし、上向きの矢印、進んでいない場合は未到達とし、下向きの矢印で示しております。

7ページ目をご覧ください。アクションプランのモニタリングの評価方法について御説明いたします。おきなわSDGsアクションプランでは、SDGsの17のゴール及びターゲットを踏まえ、SDGs達成に向けたモニタリング指標として、ローカル指標を設定しております。

アクションプランでは、プランの作成時に沖縄県の現状値、基準値と目標値を掲げており、この指標に対してモニタリングをしております。アクションプランの評価方法については、ローカル指標に対し、基準値と現状値を比較し、前進・横ばい・後退の3段階を矢印で示しております。

進捗状況の評価基準につきましては、17のゴールと同様に変化率を用いて評価しております。

達成度の評価につきましては、アクションプラン作成時に設定している目標値に対し、現状値の割合から達成度を算出しております。以上が資料1の説明となります。

続きまして資料2をご覧ください。モニタリング報告書の概要版となります。こちらは報告書の内容を抜粋したものとなります。

1ページ目はモニタリングをする背景やプロセスの説明となります。2ページ目は、17のゴールごと全体を示したものとなります。17のゴールごとに前年比と全国水準の比較を図式化したものとなっております。設定した85指標のうち、前進した指標が21件、24.7%。横ばいの指標が46件、54.1%。後退した指標が14件、16.5%となっております。詳細な指標の内容につきましては、資料3-1をご覧ください。

資料3-1の10ページ目が、17のゴールを図式化したものとなります。11ページ目から、各ゴールごとの指標の状況等になります。

各指標ごとに、前年値と現況値の変化率を矢印で表しており、また全国値と比較できる指標につきましては、全国水準に達しているものを三角で示しております。

資料2の3ページ目にお戻りください。資料2の3ページ目は、アクションプランのモニタリング全体を示したものとなっております。アクションプランで設定した59項目の指標のうち、前進が34項目、57.6%。横ばいの指標が12項目、20.4%。後退が10項目、16.9%となっております。また、更新されていない指標については、その他としております。詳細な指標の内容につきましては、資料3-1の43ページ目を御覧ください。

資料3-1の43ページ目がアクションプランをパネルで図式化したものとなります。44ページ目から優先課題ごとの指標の状況になります。ローカル指標ごとに基準値、令和6年度の状況、対基準値に対する進捗、達成度、目標値を示しております。

資料2の3ページにお戻りください。資料2の3ページの左下に主な指標の進捗状況を記載しております。

優先課題1のローカル指標である県の課長相当職以上に占める女性の割合については、基準値に比べ前進している指標となり、女性職員を幅広い分野へ配置し、職域の拡大に努めたことにより前進しております。

後退した指標につきましては、優先課題5のローカル指標、那覇空港の貨物取扱量、那覇港の、外貨取扱貨物量となります。国際貨物量がコロナ禍前の水準に回復していないことにより後退しております。

4ページ目をご覧ください。4ページ目は、令和6年度のプラットフォームを含めた取り組みの抜粋となっております。普及啓発の取り組みや、昨年12月に開催しましたSDGs全国フォーラムの取り組みなどを記載しております。以上がモニタリング報告書の説明となります。

資料3-2及び資料3-3につきましては、SDGsの進捗の経年変化の指標を取りまとめた資料となります。専門部会の委員から、直近の比較だけでなく、前々年度も含めた把握も必要ではないかと御意見をいただきまして、17のゴールごと、12の優先課題ごとの指標を取りまとめた資料を作成しております。

続いて、モニタリングの事前照会につきまして御意見をいただきありがとうございます。事前にいただきました委員の皆様からの御意見について、県の対応方針を御説明いたします。

参考資料1をご覧ください。蟹江委員から12の優先課題をクローズアップしたほうがよい。報告書の英訳、定性的な評価や日本版VNRを参考にしたいとの御意見をいただきました。次年度以降、12の優先課題を前面に記載するようモニタリング報告書の構成の検討を考えております。英訳につきましては、今後検討していきます。定性的な評価は、サマリーの中での評価を考えております。ステークホルダーの評価は、今後日本版VNRを参考に検討していきたいと考えております。

北村委員からのご意見では、定性的な評価、丁寧な分析、横断的な評価が必要ではないかとの御意見をいただきました。また、2030年の先を見据えた議論が重要だとの御意

見があります。

モニタリングの評価分析については、サマリーの中でできないか考えております。2030 年以降の議論につきましては、今後アドバイザリーボード委員の皆様からも御意見をいただきながら進めていきたいと考えております。

佐野委員からの御意見として、多様なセクターなどでまとめるのではなく、具体例を交えたほうがいいのではないかと。それについては、読み手にわかりやすい表現を検討します。

17 のゴールの全国水準と比べ、沖縄県の現状値が低い指標については、背景や理由を示したほうがいい、優先課題の総括的な考察、分析が必要ではないかとの御意見について、モニタリング報告書は、県内の SDGs の状況を共有することが趣旨となっております。そのため、サマリーの中で分析評価を実施し、アクションプランの改定を踏まえ考えていきます。

また、佐野委員から御意見がありますイベントの課題については、主催者側の負担や学生側の意見をうまく引き出せなかったことなどがありますが、引き続き、課題を整理しつつ、普及啓発に向け取り組んでまいります。

認証制度の取消はあるのかとの御質問については、著しい逸脱行為があった場合は、取り消しの対象となります。

佐野委員御ご意見にありますようにモニタリング報告書を市町村、企業団体、教育機関と共有し、取り組みの促進に生かしていきたいと考えております。

平本委員からの御意見として、指標の望ましい方向などわかりやすい表記にできないか検討します。また、「全国水準」は、「全国水準との比較」に修正したいと考えております。

17 のゴールの目標値と目標年度の明記につきましては、県としてはアクションプランのモニタリングを中心に進めていきたいと考えております。そのため 17 のゴールの指標は、全国との比較ができる参考指標のため、現時点では目標値と目標年度の設定は考えておりません。

プラットフォームの取り組み事例については、12 への優先課題と紐づけた表記を検討します。

和田委員から変化率やグラフなど分かりやすく記載してはどうかとの御意見をいただきました。県民にわかりやすい表示などにするよう検討していきます。また、目標値を上回った目標については、新たに目標を立てるなどの御意見をいただいております。目標値を上回った数値は、アクションプランの改定を考えていきたいと思っております。また、分析評価については、サマリーの中で実施を考えております。

島袋委員から御意見いただきましたモニタリングの分析評価につきましては、次年度のサマリーで実施し、アクションプランの改定につなげていきたいと考えております。説明は以上になります。

（玉城座長）

事務局の新垣さん、ありがとうございます。皆様の御意見いただきましてありがとうございました。ここから3、40分ほど意見交換をしていきたいと思っていますので、御意見ある方は是非挙手をいただきたいのですが、対面とオンラインと両方ありますので、事務局の皆さん、どなたが一番最初に手を挙げたのかを一緒に見ていただけると助かります。それではどなたからでも構いませんので、よろしければ発言の際にお名前言っていただいて、ご発言、御意見、御質問、お願いします。

御意見として、オンラインを先にしたほうがいいのではないかとということでしたので、オンラインの委員の皆様、よろしくお願いします。まずは和田委員の方をお願いします。

（和田委員）

ありがとうございます。御回答等、諸々ありがとうございます。資料も素晴らしく、すぐく分かりやすく、より一目でわかりやすいモニタリング報告書だなと思っていました。

2点ご質問がありまして、まず1点目が行動評価等について、次年度のサマリーを行っていくとありましたが、この次年度のサマリーについてどういう形で進めていこうかと考えているのか、もう少し御説明いただけたらなと思っております。これが1点目です。

2点目に関しましては、昨年度も素晴らしいものを作っていたらと思うのですが、1年間を通して、具体的に生活の中で具体的にこのモニタリング報告書がどのように使われたのか、どのくらい使われたか、実際誰をターゲットにしているのかなどについて伺いたい。伺った背景としましては、実際にはどの方にということがわかれば、その方に合った内容に今後変えていくことができると思いますし、逆にまだ使ってほしいけど、まだ使えてない方々に対してどうアプローチしていったらいいのかということを考えていけたらいいのかなと思いました。2点です。

（玉城座長）

それでは、事務局の回答をお願いしてよろしいでしょうか。サマリーの来年度以降のまとめ方と、この報告書の使われ方、もしくは届けたい先について、よろしくお願いします。

（事務局）

ありがとうございます。サマリーをどうしていくかについては、今回、このような形にするというのを具体的にまとめるまでできなかったのですが、方向性としてはVLRのような形になるのかなと考えておりますが、そのあたりも含めて、来年度引き続きアドバイザリーボードの皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

モニタリング報告書の活用につきましては、市町村連携会議でありますとか、12月に行われました全国フォーラムのワークショップの中で活用させていただきました。

高校生の皆様に全国と比較して沖縄はどうだったかとか、優先課題の中での進捗状況

がどうなっているのかというところで、御活用いただいております。

ホームページにも載っております、県外の市町村の方からもお問い合わせをいただいたことがあります。沖縄県では、引き続き、教育関係や、プラットフォームの企業・団体や、市町村連携でも活用していきたいと考えております。以上になります。

（和田委員）

ありがとうございます。サマリーについては、また1年間議論させていただければと思います。モニタリング報告書の活用先についてもしっかりと進捗状況を政策の中でPDCAとして回していくということも重要になるかなと思いますので、引き続きそういった方面への活用についても御検討いただければと思います。以上です。ありがとうございます。

（玉城座長）

和田委員ありがとうございます。他の委員、いらっしゃいますでしょうか。オンラインの方から優先したいと思います。北村委員お願いします。

（北村委員）

ありがとうございます。本日、オンラインからの参加となっしまい、申し訳ございません。報告書の方、本当に素晴らしい、しっかりと包括的にモニタリングされていて、しかも様々な取り組みの具体例も挙げられたりして、非常に良い報告書だなと思いました。それと同時に、17項目、確かに1つずつ進捗を見ていくことも大事なのですが、僕自身がそれ以上にアクションプランの優先課題の方ですね、必ずしも特定のゴールよりは複数のゴールに関わるような課題をしっかりとモニタリングしていくことに非常に価値があるのではないかなと感じています。

SDGsの目標17っていうのは、やはり1つずつ個別に取り組むというよりは、目標間のつながりに着目して、その中で何を優先課題として見極めて、改善していくのかということが大切になりますので、その意味で優先課題として挙げているところでは、もちろん課題によっては、1つだけの目標が挙がっていたところはあるのですが、多くの課題に対して複数の目標とゴールと関連しているという形で提示されていることが、非常に大事なところだと思い拝見していました。

これは僕の感想なのですが、それらの優先課題についても、沖縄としてできること、やってきていること、沖縄県が個別にやってもなかなか改善しないこと、そういうような部分もあるのではないかなと思うのですね。

例えば、パッと目についたものでは、給付金みたいなものとかが、指標に挙がったりしているのですが、国の制度が変わったり、そういう中で変わらざるを得ないものもあったりするところは、これって沖縄のせいではないよなということを思ったりするものもあるので、指標を挙げて少し解説はされてはいるのですが、沖縄として何をやっぱりでできてなくて、或いは沖縄としてこれをやってきたっていうような、その整理がもう少しあってもいいのかなと。それは別に責任逃れをしようっていう訳ではなく、むしろ逆に責任をより明確化して、沖縄としてこれをしっかりやってきているけれども、同時にこれはまだまだ努力が必要だということをもう少し明確にすることもできるのかな

と思いながら拝見していたのですが、いかがでしょうか。

（玉城座長）

事務局の皆様よろしいでしょうか。沖縄独自にやっていること、沖縄だけでは解決できないところへのアプローチ、書き方等を含めて、いかがでしょうかというところですね。

（北村委員）

そうですね。経済状況とかですね。例えば、コンテナみたいな、港湾での積み荷の指標もあったりしましたが、沖縄県だけで何とかしようとしてどうなるものではない部分も多々あるわけで、そのあたりを総合的な指標として、何をやってきたかはもちろんありますが、それはそれとして、変化を見るのに適切な指標と考えられますが、それを一律に見てしまうと沖縄県としての取り組みというのが見えづらくなってしまうのではないかというのが、僕の申し上げたいポイントでありますけれども、いかがでしょうか。

（事務局）

ありがとうございます。今の御意見は、分析の中で、是非サマリーを行う中で取り入れていきたいなと思います。ありがとうございます。

（北村委員）

是非ちょっとそういうことを書いていただいて、また気づいた点はコメントさせていただきますので、よろしくお願いします。

（玉城座長）

ありがとうございます。一言付け加えますと、例えば、去年末からすごく大きなボリュームになりましたけれども、給食の無償化を沖縄県が独自で始めて、すごくたくさんの議論がありましたけれども、市町村によってばらつきがあったものを、国が一括してこどもの給食を保障していこうという動きになると、沖縄県独自と国の両方が担保されることによって、より貧困の解消に繋がりますよねっていう、おそらく北村委員のお話は、より沖縄色とか沖縄が頑張っていることが増えてくるっていう書き方をされると、またちょっと味わい深いものになるのではないかなと思うので、私からも是非お願いしたいと思っております。

（北村委員）

ありがとうございます。まさに今御説明いただいたことかなと思います。

（玉城座長）

ありがとうございます。いかがでしょうか。佐野委員、お願いします。

（佐野委員）

ありがとうございます。今日はオンラインで参加させていただいております。事前に出した意見に対して御回答ありがとうございました。

参考資料 1 の 11 番について、北村委員からもあったとおり、優先課題がどのぐらいまで進展しているのか、或いはなかなか難しいのかという、総括的な考察とか分析がとても重要だと思います。これに対しては事務局から、サマリーで検討しているということですので、しっかりサマリーで説明できることが大切だと思います。これが 1 点目の意見です。

2 点目は参考資料 1 の 10 番で、モニタリング報告書の位置付けとしてあまり細かい分析や背景まで深掘りしない、ということだと事務局の回答を理解しました。ただ、モニタリング報告書を見ていると、例えば何々の必要がありますという書き方をしている。必要になりますと言うのであれば何らかその必要性に当たる足りなかったところがある。取り組みや背景・理由を振り返っているからこそ、そういうことを書いているのだと思うと、モニタリング報告書でどこまで、こういう結果になっていますということを説明として記載するのか、少し悩ましいと思いました。

そういった分析は全部サマリーの方に書いています、ということであれば、それをモニタリング報告書のどこかに書いておいていただけると、その指標に沿ってどうだったかということだけを書いている、そういう報告書なのだと捉えることができると思います。モニタリング報告書として完結するのであれば、記載をどういうところで留めるかという部分が少し悩ましいなと改めて思いました。

3 点目として、先ほど和田委員からあった、この報告書がどのように活用されていくかという点です。私の所属組織もいろいろな報告書を出していることは前回お話ししましたが、どれだけ活用できるのかというのは気になるところで、難しさもありますが、和田委員がおっしゃった通り、次期の企業方針などにフィードバックされるということが重要です。もう 1 つ、対外的な説明責任、アカウンタビリティーの点で、しっかり取り組みを示すという重要性は変わらないと思います。なので、どういうふうに活用されているかを測るのは難しいのですが、しっかり作っています、ということも重要だと思いますので、引き続き、そこはやっていっていただきたいと思いました。

(玉城座長)

佐野委員、ありがとうございました。

今、3 つですね、まず優先課題がどのぐらい進んでいるのかの分析をサマリー等に生かしてはいかがでしょうかという御意見をいただきましてありがとうございます。そして、モニタリングの詳細までの分析をどこまでしていくのか。必要であれば、もっと述べていく必要があるけれどもどこまで追いかけ、内容の理解につなげていくかの疑問がありますので、そういったところを御回答いただければと思います。

最後は提案ですかね。このモニタリング報告書を活用し、さらには政策に生かしていく、そして取り組み案を示していくなどの方策までできればやっていただけると良いのではないかと思います、

以上 3 つお願いいたします。

(事務局)

1 つ目の分析等については先ほども申し上げたとおり、来年度、サマリーの中で検討

していきたいと思います。

また、モニタリング報告書の中でどこまでできるかというのは、毎年度分析を入れるのは、今のところ難しいのかなと考えていますので、そういったことをモニタリング報告書の中で、この報告書は、ここまでの内容を報告するもので3年に1度分析を行います、というような方向で記載していくほうがよいのではないかと検討していきたいと思います。

3つ目の活用方法については、今後サマリーなど分析をすることで、またSDGsの取り組みのアクションプランの改定などしながら、次の取り組みに繋げていきたいとも考えていますし、モニタリング報告書を関係部局で共有することで、各部局の政策にも繋げていけるように分析を横断的にすることで共通した認識をもって県庁内で政策を推進していけるよう取り組んでいきたいと考えております。

(玉城座長)

最後の提案に関して、私からも少し突っ込んだ意見を言うと、恐らく和田委員及び佐野委員がおっしゃっていることってというのは、具体的に政策に生かしていく、更にそれが具体的に何に繋げていきたいと思います、という御意見は皆さん多分理解されていると思うのですがけれども具体的にこの方法で進めていってPDCAなどを入れる流れを皆さんは御覧になりたいのではないかと。実施した結果、何が変わったのか変わっていないのか、変わらないのかということまで流れとして見えてくると、皆さん納得されるのではないかなと思っております。以上です。

他に、ありますでしょうか。オンラインの方、佐野委員、今の意見で、大丈夫でしょうか。ありがとうございます。それでは、会場の委員の皆様お願いいたします。平本委員お願いします。

(平本委員)

ありがとうございます。

まずは、膨大な情報を整理していただいたことに非常に素晴らしいなと思います。またコメントにも書かせていただきましたけれども、きちんとローカル指標も組み込まれているというのは非常に素晴らしいなと思っております。

先ほどまでの議論に関連するお話になると思うのですが、これがモニタリングという定義が共有されているかどうか、ちょっと心配なところがあります。というのも先ほどから議論にあるように、モニタリングというのは、現状の評価ではなくて、何かを活動して、その結果がちゃんとその目標に近づいているかどうかというのを確認するための取り組みになります。ですので、どちらかというと、現状ではモニタリングと実態調査が混在してしまっているのだと思うのです。それがちょっと違和感として感じる部分かなと思います。

また、3年に1度大規模な調査をしますという話と、活動に関しては、毎年サマリーでウォッチしていきます、という話があり、要は本来異なる内容の取り組みをモニタリング本体とサマリーと呼んでいるので、何かすごく理解しにくくなっているとも思いました。

VNRなどをベースに参考にしながらやるということであれば、単純にレビュー報告書とし、ベースサーベイとして実態をまず全般的に評価をすると位置づければ良いかと思います。一方で、重点分野でこういう活動をやっていきますということについては、しっかり毎年モニタリングをして進捗を図っていきます、とする。そうすると、皆さんすぐずっと納得がいくのかなと思いました。この切り分けをしっかりといただくのが重要かなと思いました。これが1つ目ですね。

2つ目は先ほど北村委員がおっしゃったポイントです。いろんな実態がある中で、沖縄県がコントロールできるものとコントロールできないものがある。コントロールができるものに関しては、何らかのアクションをしてコントロールしていこうというような状況になる。そこについて、政策的なアプローチからアクションしていくやり方と、市民活動の中でアクションを増やしていくために、それを促していくというやり方があるのだと思うのです。

市民や多くの民間団体の方に対して、その活動を促すと言ったときに、例えばレビュー報告書やモニタリング報告書をうまく活用しながら、どんなことができるのでしょうかと、一緒にワークショップで議論をしていくということが多分必要になってきます。先ほどおっしゃられたように、例えばワークショップでやりますとか、市町村連携の中で検討しますというのは、場としては非常によろしいのではないかと思います。

では、どうしたら、この報告書を使って、例えば政策検討までいけるのか、ですとか、どうすれば例えば若者たちがアクションを活動する、検討するのに使えるのかといったところに関しては、やっぱり丁寧なガイドが必要だと思います。

例えば、デジタル庁が推進をしている、デジタル田園都市国家構想の中で動いていた取り組みにおいては、まずオンラインでダッシュボードがあって、誰でも現状値とか、毎年の値を調べることができます。一方で、ファシリテーターを育成しており、その人たちが例えば企業向けだったり、市民向けにワークショップをする。ファシリテーターは、このダッシュボードを見て、この辺りがこういうふうになっているので、だったらこの点を政策として検討しましょうとか議論を整理し、優先順位の付け方や指標化の支援を行うことになります。

参加者は、データを見ながら、実態を整理をしていくと、じゃあここで自分のアイデアを出せばいいんだなということが分かるようになる。こうした議論の進め方を資料としても整理した上で、ファシリテーターの人がガイドしていく仕組みになっているので、非常にうまく回りつつあるということになると思います。

そして、このファシリテートを自治体の職員の方ができるように、職員向けのワークショップも、ずっとやっていらっしゃっている。そのため、職員の方がいろんな部署において、データを参照しながら、市民の方々と議論することができるようになってきています。

もう1つの切り口としては、教育機関と連携をして取り組むことも有効です。

例えば今、情報Ⅱという科目が高校で導入されます。情報Ⅱの中では、地域のデータに関してしっかりと把握をして、データをもとに、何か提案を考えようという項目が書かれているのです。例えば、RESASというデータベースがありますけども、RESASのオー

プンデータを見て、自分たちの地域の特徴を把握し、整理して発表しましょうとか、それを踏まえて提案をしましょう、ということが、情報Ⅱの中で組み込まれています。ですので、そういった教材として活用してもらおう。例えばこのレポートを使って、みんなで沖縄県のSDGsの観点から、いい地域にできるような政策を考えてみましょうという形で提供すると若者の巻き込みというのは非常にやりやすくなるのではないかなと思います。

まとめると、モニタリングの定義を明確にした方がいいのではないかというのが一つ目です。二つ目としては実際にモニタリングを多くの人を巻き込んでやるのであれば、それなりの仕掛けづくりがやっぱり必要になるということについて、提案をさせていただきました。

その上で、お伺いしたいのは、その1つ目のモニタリングの定義についてです。これについて、今、実態調査なのか、何かその活動の成果を図るためのモニタリングなのか、今の状況だとどういった形で整理をされているのか、そこについてお伺いできればと思います。

（玉城座長）

事務局、御回答をお願いします。

（事務局）

今モニタリングとサマリーという方向で検討が進んでいますが、モニタリング報告書を作ったときに分析が足りないよね、というところからサマリーという話が出てきて、モニタリングとサマリーを別々に考えていると、結局モニタリングとサマリーとは一体なのではないかというような話になっていて、それで、VNRの形がセットになっていて、わかりやすいのではないかというような議論をしているところです。今も、私たちの中で向かっている方向はVNRのように、実績や活動も伝えながら、分析までするという形で作っていきたいと考えています。

（平本委員）

それだと、VNRみたいに定期的に、沖縄の場合は3年に1回そのような形でやって、随時追っていくのはサマリーの方でやっていくっていう形なのでしょうか。

（事務局）

モニタリングで毎年、数値は追っていく。

（平本委員）

例えば、レポートを見たときに、こういう課題がありますということがわかりました。それに対して、先ほど議論あったみたいに、今後こういうような取り組みをやっていきますよ、といった記載は、サマリーの方で記載するということになりますか。

（武村統括監）

はい。このモニタリング報告書とこのサマリーの使い分けについては、今内部でもちよっと議論していてですね、どのような位置付けで、それぞれを作り込んだらいいのか

というのは、まだ検討段階にあります。一応、モニタリング報告書については、毎年作るということで一応共有されております。

サマリーというものを3年に1回少し踏み込んだ内容のものを作ろうということで検討はしているのですが、このモニタリング報告書とサマリーの位置付けはどう違うのかとか、こういう議論をしております。今日は事務局として、明確な方針が出せずに恐縮ですが、色々ご意見をいただいた上で、再度検討させていただきたいと思っております。

（平本委員）

はい、ありがとうございます。わかりました。すいません。誤解をしておりました。モニタリング報告書の方が毎年で、サマリーが3年に1回で、サマリーの方が詳しいということですね。

（武村統括監）

はい、サマリーの方は少し今検討中ということです。

（平本委員）

なるほどですね。そうするとちょっとネーミングが変えたほうがいいかなと思います。

（玉城座長）

玉城ですが、今言われた、とりあえずモニタリングの定義を一旦定めて、サマリーをどういうふうな形にしましょうかということを議論されて、こちらで報告されるというのかなと思います。

（事務局）

はい。そうします。

（玉城座長）

それでは他にご意見ありますでしょうか。淵辺委員、お願いします。

（淵辺委員）

ありがとうございます。素晴らしいレポートといいますか、まとめてくださってありがとうございます。

前から申し上げているのですが、SDGsについては、非常に幅広い項目で企業が対応するべきところがいっぱいありますので、企業こそ理解して一緒に取り組むべきだと思っているところです。

その上でなんですけど、企業といっても、大企業それから中小零細企業では、その対応の差がありまして、そこをどうするかということも大きな課題だと思っております。それを踏まえて、この報告書をどうやってそれぞれの企業によく理解させるかということとは非常に大きな課題なのかなと思っているところです。

また、SDGs 的には確かにこの通りだと思うのですけれども、SDGs 的分析という言い方、失礼ですけど、それと肌感覚との違いも若干感じるところでもあります。

具体的には優先課題 6 のインフラと交通網の整備については、ほとんど前進とか、横ばいとなっているのですけれども、これとは違って、沖縄の交通渋滞とか 2 次交通の大変さとか、そういったこと皆さん言っているわけですよ。ところが、分析でいくと前進とか横ばいとなっている、もう全然違うのではないのかというのが肌感覚だと思うのですね。

また、先ほど御説明なさった優先課題 5 の物流情報金融の拠点。これもどこが後退なのか、その貨物量のどれをとって後退なのか、そこもどうも腑に落ちないといえます。そういったところもあります。一つ一つ申し上げたらいろいろあるのですけれども。後退で、資料 3 ページにありますけど、優先課題 5 と優先課題 9 だけは、ここに書いてありますがその他のものもなぜこうなのかっていうことをしっかり説明する必要があるのではないかなと思います。

同時に、SDGs は、一般的には 17 項目があることはそこまではみんな大体分かっている訳です。ところがこの優先課題 1、優先課題 2、特に先ほどの優先課題 5、これが SDGs の何の項目に当たるのかなども、その辺からが見えづらいので、よりわかりやすいレポートとして発信の仕方も是非お願いしたいなと思っているところでもあります。

それから、先ほど平本委員もおっしゃいましたけどモニタリングの定義ですね。数値的に追及できるものはいいのですけれども、情緒的なものをどうするか、誰が対象でこういう結果になったのか、これも正直見えないところがあります。個人的に少しわかりづらいです。

例えば優先課題 10 のゆいまーるは、100%となっている。ところが、優先課題 3 の地域への誇り教育の充実、これは後退の部分も入っている。地域の皆さんは誇りを持っていると思うのですけれども、教育のところで引っかかりがあるのかもわかりませんが、そういったところの整理といいますか、整理と分析等をもう少しやっていただけたら、より見た方の理解が進んで、一緒に取り組むことができるのかなと思います。

ゴールはあくまでもゴールであって、それをどうやって維持して継続するかとか、今までやってない企業とかもどうやって巻き込むかということだと思うのですけど、そういった意味で、よりわかりやすい発信の仕方、指標の作り方を望みたいと思います。以上でございます。

(玉城座長)

今、淵辺委員からありました 3 つの点ですね。

企業こそ理解すれば、大きなステークホルダーもマジョリティに対しての届き方というのがこれでよいのかどうかということ。

実態とこの書かれているものとの差ですね。恐らくそれは、ちょっと意見を言いますと、行政として図れる指標として、行政が図りやすいものが恐らくここに載っているだろうなと。ただ、先ほどから何度も皆さんが議論されているように、沖縄の実態を見たときに、行政が見えている世界と市民が見ている世界が違うから、その市民が見ている

世界にどうこれを近づけていくのかというと、また行政の方々も市民だけだと分かりにくいから、施策の中で分かりやすい指標がこちらで描かれているので、その差をどう埋めていくのかなということが課題ではないかと思います。

優先課題との関係ということで、恐らく分かりやすいページが概要版で、優先課題1から9まであって、前進とか後退ってありますけど、SDGs はすごく難しくて、ゴールだけでもたくさんあるのに、そもそも優先課題について、私たちはこちらでずっと議論してきて、沖縄の優先課題ってあると言ったけれど、せめてそこにロゴマークがあったほうがよいですねとか、恐らくその国連の SDGs 評価書が毎年出るものは、分かりやすく最重要課題で全然できていませんよ、というのがジェンダー平等とか、つくる責任つかう責任が後退していますよとか、分かりやすくあるので。そういった優先課題とこのSDGs のゴールとの連動をどういうふうにしていくのかということかと思えますし、あと3番目のモニタリングの定義というところからも実態との差をどういうふうに解消しながら見せていくのかということかなと思いますけれども、その3点に関して御意見を願います。

すいません、3点目は恐らく数値化されるものはいいのけれども、(数値化)されない気持ちとか沖縄らしさとか、恐らくこの言葉にならない部分とかをどういうふうに見せていくかということですかね。

(事務局)

ありがとうございます。優先課題については、ゴール17の結びつきなのか、分かりやすい表記にできないかということも検討していきたいと思えます。

また、企業に対してどうアプローチするかについても、課題と考えておりますけれども、モニタリング報告書をどう活用していくか、前にも意見をもらったときにステークホルダーごとという話もありましたし、ステークホルダーごとにどう取り入れていけるかなども検討していきたいと考えております。

企業の取り組みなどを紹介するなど企業向けにも報告書として企業の情報にもなるような、ステークホルダーごとというところで、取り入れていけないかなということを考えていきたいと思えます。

肌感覚と違うような指標に関しましては、そういった数値だけで表せないものがあるよねという意見をたくさんいただいております、次年度にサマリーの中で、主観的の指標を含めた県民意識調査とかも活用して進めていきたいと考えております。

また、12の優先課題につきましても、まず何か、このSDGs 実施指針や優先課題がなかなか県民に伝わっていないのではないかとの思いもありまして、次年度に図等も活用し分かりやすい表現を使って伝えられないかということを検討しております。以上になります。

(玉城座長)

ありがとうございます。それではその他ありますでしょうか。

(島袋委員)

いろいろ提出が遅れたりして申し訳ございません。私の意見を５点ばかりお伝えしたいと思います。

まず、SDGs は 17 の目標というのが重要です。沖縄県の優先課題といいましてもその 17 目標を達成するための優先すべき課題という位置付けで、あくまでこちらは沖縄県独自のものであってこれで包括して終わっているわけではありません。

17 目標を達成するための手段という位置付けだと私は考えているので、可能な限り 17 目標を先に置くべきじゃないかなと思います。これを逆転させた方がいいという話もありましたけれども、あくまで 17 の目標を前に出した方がいいと思います。そうしないと SDGs ウォッシュになりかねない。ローカル指標に基づいて目標を達成していると全面に出てくると、これは即沖縄県の SDGs ウォッシュの報告書という目で見られかねない。

だから、それを避けるためにも 17 の目標を先に出して、それを達成するために、まず沖縄県の 12 の優先課題をやっているのです、という位置付けの方がはるかに分かりやすく、公平、公正だと思います。

県の優先課題を先に出すのは、やめたほうがいいと思う。それではやはり県の 12 の優先課題と 17 の目標の関係性がよくわからないと思います。

これはもう皆さんが言っている意見なのですが、わかりやすく伝えるように書いておかないと、途切れた別物になってしまっているというのが非常に大きな問題だと思います。

それからですね、あと３点ばかりはその指標の問題ですね。全体的な設計は非常に素晴らしいと思うのですが、個別具体的なことを言わせていただきますと、現状を見る、分析する、伝えるというだけにとどまらず、SDGs とは「価値感」なのですよ。

公務員は政治的中立で、特定の価値も全部出せないのですが、そこをわざわざ SDGs がね、貧困っていうのは駄目だと。全ての人が、よく生きていけるような、そういった所得が必要だって価値感を提示してあげているわけです。

だから企画調整課がこういった価値感に基づいて SDGs が設定されているのに、例えば相対的貧困という指標とか、それから捕捉率の指標とか、ゴール 1 の指標に関して、なぜ 1 人当たりの生活保護費なのか、生活保護率なのか、沖縄で一番問題なのは捕捉率が一番低いのですよ。日本一低いじゃないですか、生活保護の捕捉率。相対的貧困率が、もう断トツで日本一高いのですよね。他の県に比べて 10 ポイントぐらい差がつく位ひどいのですよ。この表現だと、そういった深刻さが全然伝わってこないのです。

例えば、ここでの書き方「多様な取り組みが必要です」ではなくて、「抜本的な転換が必要です」と言わないといけません。それぐらい言えるのではないですか。SDGs の価値感を共有していれば、それが言えるはずなのです。これはもう自分たちは価値中立的に SDGs という価値感を受け入れていない、というような表明に見えてしまうのです。

SDGs が提示した価値感を自分らも共有し、それから見れば抜本的な取り組みが必要ですよということぐらいは書けるのではないかと思います。

だから、単なる現状評価で、第三者的に何か述べるわけじゃなくて、SDGs って価値感

を自分たちも追求していくという姿勢を見せないと、企画調整課は、本当にやる気があるのかっていうことになってしまうわけです。その部分を気にしたほうがいいのではないかと思います。

このモニタリング報告書でもこれができると思います。特に、生活保護費の指標に関しては、相対的貧困率がなければ、受給者数でもいいのですけれども、それから捕捉率、そういったものを掲げるのは絶対必要ではないかなと思います。

先ほどの話と北村さんの話とも関連するのですが、例えば、大学進学率高等教育への進学率、これが沖縄で極端に低いですよ。全国平均で61%、（沖縄は）46%ぐらいしかない。

就職、非正規とか、給与の面にはね返ってくるので、これが貧困の原因でもあるわけですよ。これがもう抜本的におかしい問題で、これ企業と民間と或いは大学と一緒に取り組まないといけない重要な問題なんですけど、これはもう大改善が必要であるっていうことを、やはり書くべきだと思います。

それから、これまたやっぱり関連していますけれど、ゴール8の労働生産性です。沖縄は労働生産性が異様に低いのです。これは前からずっと問題になっていますけれど、労働生産性は経済界とのタッグを組んだ取り組みが必要かもしれないのですが、この労働生産性が低いってことです。これはもう県民全体で企業も一緒になって取り組まないといけない。その取り組まなきゃいけないことぐらいは書けるのではないですか、抜本的な大問題であるっていうことが。

そういった大問題である、抜本的な改革が必要だっていうことぐらい分かっているはずですよ。それがSDGsの価値感を共有して、県の企画部もそういう意識を持っていますよって、前向きに取り組むのですよという態度を示してもらわないと、ずっとその客観的なこういう数字です、こういう数字ですっていうものばかり続いていたら、SDGsの価値感を共有してないじゃないか、せっかく素晴らしい制度設計なのにモニタリングの評価の部分で、もう本当になんていうかどうでもいい書き方にしか見えなくて、非常にもったいないと思います。

それから、ついでに、水の問題はPFOS、PFOAは書いたほうがいいのではないかなと思います。これは全国的な問題になっているし、何もアメリカ軍だけの責任でもないの、綺麗な水を飲めるかという問題に関しては、やはり取り上げた方がいいのではないかなと思います。

それから、パートナーシップの問題で、沖縄で自主防災組織率がかなり低いです。本土で70%超えているのですけれど沖縄では40%しかない。これ指標に出てないのですけれども、先ほど総務省を調べたら、75とか言っているのですよね。なんで自主防災組織の比率が少ないのか。こんなに全国と比べて極端に低いのか、これはパートナーシップの問題ですよ。

ゴール17なんて、人口1人当たりのNPOとか市民団体の組織数とか、何かしら社会的なパートナーシップが実際に発達しているか発達していないかという指標や数値があるのですよね、市民団体の組織率だとか、参加率だとか。

それからもう古いタイプのパートナーシップですけど、自治会の組織率、自治会の参

加率でもいいです。基本的に自主防災組織の多くの場合は、新しく作るのではなくて、自治会を母体にして作っている場合が多いです。沖縄でそれを作れないのは、もう自治会崩壊しているからですね。先ほどユイマールっていう話もありましたけれど、ユイマールが回っていない、社会がほぼ崩壊しているということができます。そういった問題意識をやはり持っていてほしいと思います。パートナーシップを強化しないといけないという問題意識です。

大学における留学生割合、これはないよなという比率。本当に世の中でパートナーシップがうまく構成されているか構築されているかという、そういった指標を持ってこない、もう全然問題が分からないということです。

だから、ここは市民団体の組織率とか参加率とか、何かそういったソーシャルキャピタルがいかに作られているかという指標をソーシャルキャピタルの指標から使ってもいいのですけれど、持ってきたほうがいいと思います。

最後に、どう使うかというときに、企画調整課がやっていることなので、本当は総合計画の中に完全に活かすっていう方向性ですね。沖縄の場合、振興計画は総合計画になってしまっているのですよ。もうこれ、非常に残念なことなのですが、政府の介入はある。ですけれども、政府が同時に SDGs 推進を要求しているので、そういった中でこの SDGs の基準をきちんと組み込んでいくという方向性ですね、この企画調整課の中だったら十分できるのではないかなと思うのです。

将来的に振興計画あと何年かで抜本的に見直す、とあるのですが、その自立した制度とは別の総合計画を作ることになるかと思うのですが、そういったときに、この SDGs で使われた手法は、非常に重要な財産になっていくのではないかと思います。

これを将来的には振興計画の中にも組み込んでいく、振興計画自体はこれで作っていく、というようなことを想定して取り組んだ方がいいのではないかなと思います。以上5点です。

(玉城座長)

私のメモでは6点になってしまいました。

1点目、沖縄の独自課題ではなくて自分の目標を手段として補っているのが、沖縄の独自課題なので、その順番はちゃんと持っていた方がいいのではないかなという御意見ですね、

指標は現状を伝えるのに留まっている。これは何人かの委員からもありましたけれども、ただこれは、何故この目標を置いてるかというと、社会変革のために恐らく置いている、この課題を私たちは解決するんだよということで、世界でも国でも県でもやっている、現状を伝えることに留まるのではなくて、私たちの意識変革、社会変革のための価値感をしっかりと沖縄県の方から企画調整課のほうから示していくことが大事なんじゃないか、そうじゃなければ、変わらないのではないか、抜本的な取り組みに繋がらないのではないか、ということですね。

あと3番目が、高等教育の進学率の低さでしたり、労働生産性の低さに関しても、本気で県が変えたいです、ということをもっとメッセージとして示してください。

4 番目の水の問題 PF0S、PF0A の問題もきちんと入れたほうがいいのではないか。これは米軍基地に留まらず、様々日本国内の問題にもなっているかなという御意見もあります。

5 番目、パートナーシップもこの指標の置き方が間違えていないだろうか、ここでもう一度見直していけないでしょうかということがありました。

6 番目、最後のまとめとして、これを企画調整課のみで留めず、全庁的だけに留めず、沖縄振興計画の中にしっかりと入れ込んでもらう取り組みを、今後引き続きお願いしますということですかね。6 点お願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。17 の目標と 12 の優先課題の置き方については、今後検討していきたいと思います。様々な指標がいくつかありますけれども、やはり沖縄の課題を表す指標として、こういうものが必要ではないかという意見かと思っていますので、今後の指標の追加も検討しながら考えていきたいと思います。

また、踏み込んだ記載、抜本的な取り組みが必要というようなことも必要じゃないかということについても検討していきたいと思います。

パートナーシップの自主防災組織や自治会についても、指標の追加として検討していきたいと思います。

あと、総合計画の中に入れるという話については、今も SDGs を柱として、計画は作られているのですが、どのように SDGs を取り組んでいくのかというのは、また今後の検討の中で考えていきたいと思います。以上です。

（玉城座長）

ありがとうございます。座長として、私も一つ言わせていただきますと、申し訳ない、事前に何も出せなかったのですが、概要版の例えばローカル指標に対して、優先課題の 1、6、10（前進）、5、9（後退）とありますけれども、先ほどから皆さんが同じことをおっしゃっていますが、優先課題が進んだ、例えば女性管理職の割合が今回非常に増えたということを紙面で、私も拝見しました。何故こんなに増えることができたのか、恐らく政策だったり、意識改革があったはずですね。うまくいった事例からどういう風にしたらこれがうまくいったのか、恐らくこのグッドプラクティス、皆さんも何とかおっしゃってるかと思いますが、うまくいった事例はしっかりと共有しながら、具体的にこういうことをして、女性管理職増やしましょうというところまで、やはりしっかりと書いた方が現状だけではない形で具体的にはこうこうです、ということをやっていくのが非常によいかなと思いました。

最近、私ジェンダー平等でアンコンシャスバイアスの講座に呼ばれていますが、アンコンシャスバイアス、無自覚の自分たちの差別というか、無自覚における、自分たちがやってしまった偏見があるのですが、今までこの女性政策っていっぱいやってきたけれども、結局変わるべきは自分たちの意識だね、ということで政府が意識にまでそのメスを入れ始めているのですが、すごく大事なことだなと思っていて、最後は自覚ですよということだと思ふんですよ。

このSDGsに関しても、最後自覚の部分をどれだけ入れられるのかということはずごく大事で、うまくいった事例と同時に一番後退とある、例えば、児童虐待の数がこんなに増えていることを、世の中のほとんどが知らないと思います。

知っている人は知っている、けれども知らないであれば、今すぐにでも児童虐待を止めましょう、止めましょう、皆で具体的に何ができるのか。毎年こういう形で報告書を出すのであれば、絶対ここは重点的に沖縄県として（児童虐待を）止めましょうということを企画調整課の方から言っているのではないのでしょうか。

関係部署からのメッセージをいただいて、県民が具体的に何をしましょうというところまでいって本当に意識改革まで、アクションプランにまで行くということはあっているのではないかなというふうに思いました。以上です。

平本委員お願いします。

（平本委員）

非常に重要なポイントを皆さんがお話されていると思います。方向性として、今後このレポートが分厚くなっていく方向なるともう誰も読まなくなるので、それはそれですごく大きな問題だなと思ってます。

やっぱり今のお話聞いていても、モニタリング報告書というよりも、どちらかというファクトブックとか、分析報告書、現状分析報告書みたいな形で完成させていった方がよろしいのかなと思います。

これから沖縄県としてSDGsを通じて何かを変えていきたい、という話になると、重点的に何をやっていきますか、どのレベルまでやっていきますか、ということを明確に決めないと、モニタリングができないと思うのです。

例えば3年とかの期間で区切るのであれば、まさに沖縄県はSDGs未来都市でモデル事業認定をされているので、本来は、その計画が軸になってその中に今の皆様方の思い、例えば、その経済界からすればこういった目標を掲げてもらわないと困るという思い、市民にとって見れば、この課題に関してはやっぱり優先的に解決しないと困るという思いが組み込まれてることが必要なんじゃないかなと思います。

今、石破政権になって、未来都市の枠組みも変わって、過去に未来都市を認定された自治体に関しては、改定を出してもいいとなっています。

それについても予算が出るという制度改定がありました。その改訂をうまく活用したい。ここまでやってきたことで、現状をみんなが分かってきて、ようやくこうしたいという考えを明確にデータを用いて言えるようになった。その環境を生かして、方向性をしっかりと決めて、計画として示していくと非常にいいのではないかと思います。

ですので、今のような形じゃなくてもいいですけども、明確な方向性を恐れずに出していただき、これだけはやり切るんだということもしっかり示していただく。

それによって、巻き込みたいステークホルダー、重要なステークホルダーの思いがちゃんとそこに盛り込まれているかどうか確認ができるのではないかと思います。是非そういった観点で御検討いただけるとありがたいです。

ちなみに質問としては、SDGs 未来都市計画とモデル事業と、モニタリング報告書は今どういう関係になっているのでしょうか。

（玉城座長）

最初の方の御提案でいいかと思いますので、最後の方ですね。未来都市の部分の計画と、こちらの報告書の部分。

（事務局）

今ですね、未来都市計画、令和3年度実施しまして進捗を毎年出しているところで。この未来都市計画の中で、やっぱりこのアクションプランだったりとか、実施指針作ったアクションとして、プラットフォームを創設するっていうところを掲げておりますので、それに沿って今進めているところでございます。

このアクションプランとか実施指針の中に、このモニタリングをしていくということも掲げられていますので、今その方針で進んでいるところです。以上です。

（玉城座長）

それでは島袋委員をお願いします。

（島袋委員）

多様な取り組みが必要であるぐらいのことは、書いてあるのですね。

私の要求はもう分析まではいいから、いずれにせよ SDGs の価値感を自分たちも共有してるんだというような、抜本的な対策に取り組む必要であるとかいうように、そういう価値観を共有していますよ、というのが分かるぐらいの言葉は使って欲しいなと思います。今あまりにも第三者的で、他人ごとのように思ってしまうのですね。だから、一緒にやって良きしょうみたいなのところが見える程度には入れてもいいのではないかなというのが私の気持ちです。

それから、指標に関しては、3つぐらいは増えて欲しいなと。そんなに増やさなくてもいいのですが、やはりどうしてもそのパートナーシップの指標とかおかしいなと思いますし、そういった部分に関しては、ちょっと考えて欲しいなというところですね。確かにあまりに増やすとよくないですし。

それから、サマリーと言われている VLR ですかね。あれ、それに関しまして、もし今のままでいくと全く同じように、全部指標を出してこれを分析して、さらに改善を提示するという形になるのか、そうすると、ほとんどサマリーじゃなくて、もっと分厚くなるというイメージになってしまいますが、評価分析、それから改善、それまでやるのでしたら、一体これがどれぐらいの分量というか、取り扱いになるのかというのがまだ見えてこないのですか、どのようなイメージになりますか。 私たちも何か考えないといけないかもしれないですね。こういった VLR をどうやっていくのか。

（玉城座長）

サマリー、VLR について、分量といいますか、今の段階のイメージでよいかと。

（事務局）

はい。サマリーをやることで最終的には県民にこういう状況だから、こういうことをやっていくべきだというのを示したいと考えているので、県民に示す部分は本当に少なくもう１枚紙ぐらいでも示せるような形にできたらいいのですけれども、VLRとか参考にしていくと、10ページぐらいのものをモニタリング報告書プラス10ページ程度の概要版のような。

報告書の他に、分析とアウトプットといいますか、県民にこういうアクションにつなげて欲しいというようなことをお示しできればと考えております。

（玉城座長）

刈辺委員をお願いします。

（刈辺委員）

ありがとうございます。先ほど島袋委員がおっしゃったことについて、私も全く同感で、今回のこのモニタリング報告書の中に沖縄の課題がいっぱいあるわけですから、これをどう発信して、ここを一つ一つ取り組んでいくかということだと思います。

先ほどおっしゃった沖縄振興審議会、そこももう5年目の折り返しで専門部会も立ち上がっていますので、そういったところへも上手く情報提供をして、次の振興策を沖縄独自のものに是非持っていけたらなと思います。

また、分析についてですが、経済同友会もSDGs委員会というのをずっとやっていたのですが、来年度は名称変えようと思っています。同じ様な分析ではなくて、どうするかで、例えば地域課題研究解決委員会というふうにしていこうかなと思っているところです。

もうある程度のところは、見えてきているわけですから、どうやったらこれが解決されるか、できるのかという、そこに持っていこうと思っているところです。以上です。

（玉城座長）

今の御意見も踏まえまして、座長として時間管理を任されておりますので、この後、次年度の今後の取り組みと報告、そして意見交換と進めていきたいと思っています。今、非常に重要な意見交換になっているかなと思っております、今の議論がおそらく次の議論に関わってくると思いますので、一旦、事務局から回答をもらって、次にまた進めさせていたきたいと思っています。お願いします。

（事務局）

このモニタリング報告書も、最終的には、県民にどういうふうにして欲しいというところを示す方向にいきたいと考えているので、経済同友会のように、こちらもこういうアクションをしていこうということをできるだけわかりやすく伝えられるような方向で考えているところです。

（玉城座長）

この議論は、佐野委員が何年か前に課題分析は非常に重要だけれども、アクションプ

ラン（の取組）をトライアンドエラーで積み重ねていきながら、もっと前に進めるところをもうちょっとやれないかという御意見があったと思います。

この数年、この SDGs のアドバイザリーボードが開設されまして、まず現状知ること大事だよね。あと、沖縄の優先課題が大事だよねとことで、（議論を）積み重ねてきたと思うのですが、何か報告書のための集まりになっていないかなと思っています。私たちは社会を変えたいと思ってこちらに集まっていると思うのですよね。いろんな各業界ステークホルダーの皆さんが出てきていらっしゃると思いますので、この今の思いは SDGs 推進室の方々と一致していると思います。社会変革のための SDGs だからこそ、沖縄県さんもうちょっと前に動かしませんか、というふうにおっしゃっていると思います。

例えば、委員も言いにくいのが、ここまで出来上がってしまったら、最後、微修正で終わるのって、もったいないよなと思っていらっしゃる方が非常に多くて、もう少しその最初の段階で、設計を一緒にやって、そこでもしかしたら分担することがあるだろうし。（例えば）経済同友会にはこういったものを参考にさせていただく、北村先生が色々な会議に参加された経験から、こういう事例もありますよ、とか平本委員のこういう事例がありますよ、という意見など参考にしながら具体的なアクションを促していくための作り方にしていきませんか、ということだと思うのですよね。

いつになったらこのアクション、本当に社会を変えられるんだという実感が県民に届くのか、企業が動かせるのか、県庁が全庁的にできるのかっていうところに、皆さんもうずっと同じこと言ってらっしゃるのかなと思いますので、これを踏まえた上で、もしかしたらまた皆さん人事体制が変わってまた一からとなると、私たちはずっと同じままで、職員さん変わってまた同じことを繰り返し、というのはもったいないくないですか。

私もこれだけの方々を全国から集めておきながら、ずっとこの報告書のためだけの会議に終わらせるのは非常にもったいないかなと思うのですけれども、委員の皆様、どうでしょうか。

そういった形でもう少し前に進められるような話し合いをしていくという形でいかがでしょうか。

これを一旦受けていただいて、沖縄県として前に進めていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。次に行きたいと思っていますので事務局の方で資料 4 の説明をお願いいたします。

（事務局）

資料 4 をご覧ください。

1 ページ目は、令和 6 年度の取り組みについての概要となります。

新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画や実施指針、アクションプランに基づき、全県的な SDGs の展開を図っております。取り組みとしましては、多様な主体の参画と連携として、プラットフォーム関連の取り組みや、令和 6 年度に初めて、大学コンソーシアムと連携した取り組みをしております。

また、パートナー団体や認証団体などによる企業団体の取り組みの見える化や、総合的な施策展開として、新沖縄・21 世紀ビジョンに基づき、様々な施策展開を図っており

ます。

SDGs 全国フォーラムを実施し、国内外に県内の SDGs の取り組みの発信やモニタリングを実施しております。

2 ページ目から 4 ページ目までは、令和 6 年度の取り組み事例となっております。

5 ページ目を御覧ください。令和 7 年度の取り組みとしましては、引き続き、全県的な取り組みを図ってまいります。プラットフォームを活用した多様な主体の参画と情報共有、県民参加型イベントや、若者を巻き込んだ取り組みの強化、他地域との連携、モニタリングの深化を図り、サマリーの実施など、県民にわかりやすく発信することを想定しております。以上が資料 4 の説明となります。

続きまして、参考資料 2 の説明をしたいと思います。

12 月に開催しましたアドバイザーボード会議においてサマリーについて様々な御意見をいただきました。委員の皆様から、12 の優先課題を軸にしたほうがいい、外部の視点を取り入れた評価や、県民を主体とした参加、若者などですね、サマリーではなく別の名前がいいのではないかと、ステークホルダーの視点や意見が重要。定量的な評価だけでなく、定性的を含めた評価が重要、沖縄らしい平和や文化の視点といった御意見をいただいております。

また今日も様々な意見をもらいました。県としましては、12 の優先課題を軸に、定量的な評価を含めた分析評価を考えております。また、若者、高校生大学生のワークショップを開催し、自分たちができる 12 の優先課題の解決を目指したアクションを考える取り組みもしたいと考えております。

外部の視点としては、専門部会やプラットフォームを活用できないかを検討しています。

サマリーは、県民の皆様にわかりやすく、SDGs を発信するため、図や絵などを用いてビジュアルで理解できる、理解しやすいものにまとめられないかと考えております。県民に読んでもらう、理解してもらう、行動につなげてもらうことを目的に作成したいと考えております。

委員の皆様からの御意見をいただきながら作成していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

（玉城座長）

ご説明ありがとうございました。それでは、各委員より御意見を伺ってまいりたいのですが、恐らくこちらの議論が 15 分ほどになりますので、大変短いのですが手短にお願いしたいと思います。まずオンライン上の委員の方からお願いいたします。北村委員お願いします。

（北村委員）

ありがとうございます。非常に様々な取り組みを行っていて、これらをしっかり進めていくことが大事だなという中で、委員の皆様の中でもいろんな考え方がありかなと思いますので、あくまで僕の個人的な意見なのですが、SDGs が残り 5 年ほどとい

う中で、まだ SDGs をしっかりやっていくんだということはもちろん大事なのですが、やはりそのポスト 2030 を見据えた色々な活動ということも、これから検討していくべきかと。

何か SDGs にこだわりすぎずに、沖縄らしいポスト 2030、SDGs に頼らない、もっとこういうものが必要だと、そういうことを議論して仕掛けていくような場づくりがよりできるといいなと思ひまして。

ちょっと難しいのですが、SDGs の推進をしっかり取り組みましょうという今の活動を続けつつ、でも、その先の事というのをどういうふうにやっていこうか。難しさはあるかと思うのですが、このまま SDGs、SDGs でやっていって、じゃあ 2030 年になりました、はい、じゃ次どうしましょうと言ってまた何年かかけて考えてっていった形になって……。

そうすると、国連もいろんな議論をしていますので、国連が 2030 年に何か提示する、そのアイデアに乗っかりましょう、みたいな感じになりそうな気がするので、それより何かこう、この SDGs として、10 年かけて積み上げてきた議論とか今やられているような活動などいろんな取り組みを、沖縄ならではの、やはり沖縄の皆さんがですね、私たちはこういうふうな社会をつくっていくんだっていうのを打ち出すような、何かそういうメッセージ性を持った活動がもっとあってもいいんじゃないかと思い、拝見していたのですけど、いかがですかね。

（玉城座長）

一旦、ざっと全員に出してもらいましょうか、一つ一つに回答してもらおうよりは。他にありますか。佐野委員。

（佐野委員）

今、北村委員がおっしゃったことで思い出しました。今日も島袋委員から話がありましたが、もともと沖縄は 21 世紀ビジョンという形で、SDGs が言われる前から、どういう沖縄になりたいかということを県民の皆さんの意識を確認しながらまとめてきた経緯があります。MDGs はどちらかという先進国は関係ないというものでしたが、SDGs になって、みんなでやりましょうという話になってきた。沖縄では、この 21 世紀ビジョンを作るときのいろいろな議論があった上で、SDGs が来て、じゃあ沖縄らしい SDGs を考えていこう、というので万国津梁会議という場で議論してきた、ということだったと思い出しました。

だとすると、(SDGs) 実施指針にも書きましたが、沖縄の皆さんが、なりたい沖縄、変えたくない部分、すごくいいと思っているところと、やはり世界基準で見えて変えていけないといけないところ、例としてよく言われるのがジェンダーですが、それらを SDGs のゴールに合わせて出していきながら、もう少しナラティブにするのに「優先課題」というまとめ方をした。そういうことを考えると、今、この SDGs とか 12 の優先課題をやるだけでいっぱいいっぱいだろうと思います。

ただ、北村委員の話を聞いていて、この前の全国フォーラムのサイドイベントもそうですが、Z 世代とか若い世代の皆さんが、SDGs を超えて、ポスト SDGs という先に向けて、いろいろな考え方や議論を行って発信しようというのであれば、それをどんどん展

開できるように、そういう場をサポートしていくというのも重要なことだと思いました。今 SDGs を沖縄の姿とアライン（調和）させながら取り組んでできているところは止めずに、そこはしっかりやっていくけれども、新しい議論を生み出す場もうまくサポートできたらいいのではないかと思います。

（玉城座長）

ありがとうございます。和田委員お願いします。

（和田委員）

ありがとうございます。北村先生、佐野先生の御意見に全く賛成です。

その上で思ったのが、この期間の中でおきなわ SDGs プラットフォームがあって、それが次のポスト SDGs においても基礎となる重要なところだと思うので、この5年間でプラットフォームの機能や、そのキャパシティービルディングといったところをどんどんやっていかなければならないだろうなというふうに思いました。

そうしたときに、数年前にプラットフォーム作るときに分科会ができて自発的にイベントを行っていくようにする、そういったところの機能といったところ、ちょっと令和7年度においても拡充させていただけたらなと思っていて、実際、令和6年度だと会員と連携した県民参加型イベント4件、開催されているようですが、例えばプラットフォーム発とかでどんどんどんどんこう、普及啓発のアクションができていただけたらなと思いました。以上です。

（玉城座長）

ありがとうございます。それでは、会場の委員の皆様いかがでしょうか。平本委員、お願いします。

（平本委員）

皆様の意見に私も賛同です。まずちょっと先ほどのお話にも関連しますけれども、やっぱり議論する話ってこういう具体的な取り組みの話をもっとやるべきなんじゃないかなと思っています。

もうなんか、誰も言わないので言います。私はモニタリング報告書はもうこれで完成でもいいかなと思っています。まだこういう課題がありますというのは、課題としてちゃんと記載を最後にしておけば、完成としていいのではないかと思います。

例えば、サマリーとかの話も、こういった観点でのサマリーも必要なんじゃないかと、課題として整理していいのではないかと思います。というのも、なんかもうずっとモニタリング報告書を見ている、これを数年見るってあんまりしないことなので、もうここで一回切ってしまうということがいいかなと思います。

それは先ほど淵辺委員がおっしゃった、分析をやめてアクションしましょうというような話と同じだと思うのですね。

SDGs に関する取り組みについて、資料4で解説いただいたことは、先ほど、未来都市計画としてやっているものとリンクしてるのではないかなと思います。県庁として進めて

いる、こっちの方が主になっている。でも、モニタリングレポートではその動きが全然見えない。そんな状況になっているのだと思うのですね。

そこはやはり繋がっていくということを意識して、次年度の取り組みというのを考えていただく必要があるかなと思います。

例えば、プラットフォームを作って、どんどん会員が増えていっている。これによって、沖縄県全体で課題解決に取り組む人たちの輪が広がっているという変容があります。ここまではすごくいいですよ。その動きが、ちゃんとこの12の重点分野に紐づいていますか、というところはまだ紐づいていない。であれば、そこをつなげるような仕掛けをやりましょうというような話になる。今バラバラなものがちゃんと繋がって、全体として変容が起こるだろうということもわかるようになっていくと思います。そういった形で、今、並列で進んでいるものを繋げるということを意識しながら、取り組みを発展していただけると、皆様がこれまで頑張っていた成果も、しっかりと私達の方でも肌感覚で感じられるようになるのではないかと思います。以上です。

(玉城座長)

ありがとうございます。淵辺委員お願いします。

(淵辺委員)

ありがとうございます。今、平本委員や、玉城座長もおっしゃいましたけど報告書を作るための集まりだったような感じもいたします。

それはそれで非常に意義があることでもあるので、ある程度まとまったわけですから、次のステップにやはり進むべきだと思います。

同時に、SDGsの17項目はもちろん基本であり、それ以外のものもまだいろいろあると思いますので、改めて、ありがたい沖縄の姿みたいなものを描いた中で、どこをどうやって取り組んでいく等をこれからまた議論して、その具体的なことをお話ができていけたらという感じがするところです。以上です。ありがとうございます。

(玉城座長)

ありがとうございます。島袋委員お願いします。

(島袋委員)

私のイメージなのですが、この前の全国フォーラムが非常に大掛かりで作り込むのは大変だったと思うのですが、県民への啓発なり、或いは高校生大学生への参加とか呼びかけとか、いろんな面で非常に大きかったなと思っていて、一過性のイベントとして終わらせるのは勿体ない、もっと縮小した形でもいいのですが、様々なステークホルダー或いはパートナーが一堂に対面で集まって情報交換、交流する、そういった場を何か定例化できないかなというイメージですね。

その中で、様々な企画、高校生・大学生中心としたものとか、何かやっていけたら、沖縄県内のSDGsの推進が活性化しないかなと思っています。全国フォーラムのノウハウが蓄積されているはずなので、活かしたほうがいい。

非常に負担になることを言って申し訳ないのですけれども、直接参加しまして非常に楽しかったですし、ああいう機会があるといいなというのが一つあります。

私は、沖縄県の明るい選挙推進協議会の会長を長年やっていたのですけれども、県の明選協も、いろんなイベント、定例化されて結構あったのですよね。そんなに負担がかからずにできるような、何か仕掛けがあるのではないかな、というイメージです。何かそういったことを考えていただきたいなと思います。以上です。

（玉城座長）

それでは今、いくつか出てきたかなと思っています。佐野委員、北村委員、同じかなと思いますけれども、沖縄ならではの、社会のメッセージ、ありがたい沖縄、そういうものをもう少し次年度はつくれないか。ポスト SDGs については、沖縄らしい課題をしっかりとつくれないか、考えられないかですかね。

あとは、おきなわ SDGs プラットフォームについて、和田委員からのプラットフォーム機能の自発性、アクションが広がる仕掛けというのと、島袋委員がおっしゃっていた SDGs 全国自治体フォーラムで各ステークホルダーが頑張っている、そこに向けて皆さんと一緒に取り組み、一堂に会する。アドバイザリーボードの委員の皆さんも参加できましたし、ああいったことがもう少し可視化される中で、できることがあるのではないかという意見を頂戴しました。

平本委員のモニタリング報告書は完成でいいのではないかと、それを再検討されてはどうですかということ、その他の委員と、淵辺委員からの御意見も一緒だったと思いますが、現状把握・評価の段階から、よりアクションへ、活性化へというところへ向けて動かしていくことが次のステップとして必要なのではないかと。

恐らく皆さんからこの場で、何か出てきた資料を書き換えていくということに、もういいのではないかとこの御意見があるのかなと思っています。

その辺りは、私も高校生の SDGs 未来甲子園であるとか、大学コンソーシアムの大学生の活動に関わっていますが、大学生がすごかったのが、アクションプランを考えたときに、普通だったら内容を熟してから県庁に政策提言に行くと思うのですが、一番最初に政策提言に行ったんですね。

何でいきなり政策提言をするの、と聞いたら、私たちの意見をどこまで聞いてくれるかわからないのにどこまでアクションしたらいいかわからないじゃないですか、と言ってなるほどと思いました。

それをダイバーシティ課にいて、私たちは、この保育園という大事な時期のこともたちのために性の多様性を学べるような絵本を作りたい。もちろんクオリティは判断していただいていいのですけれども、県庁のホームページに掲載されるように最初に政策提言をさせてください、って大学生が言ったことがすごいなと思いました。

（ある意味）バックキャストिंगですね、何か熟してからではなくて最初から目標掲げてここに向かってみんなが進んでいく、といったところが素晴らしいなと思いました。

でも、そういう大学生にしても、高校生にしても、本当に県内にはたくさんいるの

で、それを一堂に会してみるような、お金かけなくてもできる方法ってあるのかなと思います。

代理店さんを入れなくても手弁当でやれること、今回も皆様の御協力のもと、成り立っていたかなと思うので、少し広い分科会で、例えば企業さんだったら淵辺委員お願いします、とか若者は和田委員お願いしますみたいな感じで、各委員に振ってやっていくということをまた一回やってもいいのではないかなと、そう思います。その辺りはまた事務局にお願いいたします。

（事務局）

すみません、企画調整統括監の武村でございます。平本先生からもありましたけれども、今回のモニタリング報告書につきましては、12の優先課題との整理の仕方ですとか、指標のこととか様々な御意見いただきました。

モニタリング報告書については、玉城座長と皆様の御意見をどう取り込むかということをお相談させていただくということで、今回で一定の取りまとめということで御了承いただきたいと思っております。

また、このプラットフォームを活用ということも、アクションに繋がる一つの要素だと思っております。これまでの取り組みの評価の仕方、そしてこれからどうアクションに繋げていくかということを含めて、もう少し事務局の方で検討していきたいと思っております。以上でございます。

（玉城座長）

それでは委員の皆様、議論がたくさん出ました。本当に皆様の意見を一つ一つが非常に重要な意見交換になったかなと思います。事務局の方も、私言いたい放題言いましたが、また次年度に引き続き、繋げていけるのではないかなというふうに思います。

全ての議事に関して終了しましたので、進行を事務局の方にお返しします。よろしくお願いいたします。

（事務局）

委員の皆様、活発な御意見、御議論いただきましてありがとうございました。本日の会議につきましては事務局にて議事概要をまとめて、皆様に確認していただいた後に、県のホームページに会議資料とともに載せますので、その議事録の確認作業をお願いいたします。

また、令和7年度のアドバイザリーボード委員就任の御意向を確認しまして、皆様に更新いただけるということで、大変ありがとうございます。この後、承諾書と依頼文をお送りさせていただきますので、お手続きくださいますようどうぞよろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、令和6年度第2回アドバイザリーボード会議を終了いたします。本日はありがとうございました。